

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 1275600128 | | |
| 法人名 | 有限会社 グループホーム光 | | |
| 事業所名 | グループホーム光 | | |
| 所在地 | 千葉県山武郡横芝光町原方2486 | | |
| 自己評価作成日 | 平成25年1月17日 | 評価結果市町村受理日 | 平成25年3月27日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会 | | |
| 所在地 | 東京都世田谷区弦巻5-1-33-602 | | |
| 訪問調査日 | 平成25年1月28日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <p>①旧施設と同様、平屋にこだわって開放的な雰囲気の中で、1人1人の生活を重視した支援を行っている。又、施設前にある多目的広場を有効に活用し、居室内で過ごしがちな生活に変化を与えるようにしている。</p> <p>②ホームページにて日々の利用者の様子を更新している。</p> <p>③幼老統合介護を実践し、子供達より元気をもらえる。</p> |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>1. JR横芝駅から車で5分ほど、のどかな田園の中に昨年6月新設された、太陽光発電設備を備えた平屋建てで、人と環境に配慮した施設です。同一敷地内に、ディサービスと学童保育「あすなる」が併設されており、高齢者と子供たちの交流により双方の福祉向上につなげようとしています。県内では珍しい幼老統合ケアの取組みの実践が期待されます。</p> <p>2. 広い菜園が2か所にあり、利用者主導で職員と共に季節毎の野菜の栽培をしています。利用者は種を蒔いて収穫する喜びを満喫しています。</p> <p>3. 家族の希望に添って、医師や看護師の連携のもと看取りを行なっています。利用者到最后まで落ち着いて向き合う体制が取れており、安心感を与え感謝されています。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域の特性を生かしたかかわりを目指しながら、そのひとらしく生活できるよう支援する | 法人の理念は、光と風がおりなす調和のもと、地域・社会と共にある暮らしの中で、利用者一人ひとりが健やかで自分らしくあり続けられる、安心と満足の和する「なごみの家」を創造しますとしています。3項目の行動基準を作り、利用者の喜びを目指し職員も共有し、質の高いケアを実践しています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地元の町会や町行事への参加、利用者と一緒に近所の方の畑での収穫作業などを地域の方々との理解の元で交流が行なわれている。 | 町内会の役員を引き受け利用者共々、産業まつり、夏祭り、敬老会、民謡発表会など地域行事にも積極的に参加し地域の交流を図っています。また近隣の大学のボランティアも受け入れ地域に根ざした活動も活発に行っています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 近くにお住まいの高齢者の方への施設の行事の参加の誘いかけなど取り組みを行っている。又、相談業務があれば受け入れている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議での話し合いや、意見交換をどうして事業所にフィードバックし、サービス向上に反映させている。 | 運営推進会議は、横芝光町役場、民生委員、町議会議員、地域包括支援センター、家族代表、管理者などが参加し年6回開催されています。利用者家族から建設的な意見も出され、サービスの向上に反映しています。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 町担当者へ行事への参加や、訪問時に普段の生活を見ていただき、開放的なグループホームを目指し、協力関係を築いている。 | 役場の福祉課の担当者とは常に連絡を取り相談にのってもらっています。運営推進会議にも役場、地域包括支援センター双方の出席があり、密接な協力関係が築かれています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 研修参加の機会により、全員で身体拘束しないケアにつとめている。 | 身体拘束排除宣言を謳い、マニュアルも作成されています。職員は社内外で研修を受けており、身体拘束について理解しています。玄関や廊下のサッシは原則として日中は施錠していません。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修参加等により、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、事業所内での虐待が見過ごされないようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 今後増えるであろう後見人制度を理解し、権利擁護をどのように進めるかを事業所で考えている。また、研修を受けたものを講師に、各種制度などを学び、支援につなげている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 十分な説明をし、理解納得を得られるよう行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 気づいた点は、遠慮なく管理者等に意見していただいている。又、言いにくい事柄については、町に相談し、町から管理者に意見する体制を整えている | 充実したホームページを活用し、「ご家族連絡板」で個別に意見を聴くなど工夫をしています。又面会や夏祭り・クリスマス会等で来訪時に直接意見、要望を聴いて運営に反映しています。利用者については、日頃の触れ合いの中で把握しています。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員の意見、提案は、事業所運営に反映するようにしている。毎月のケア会議で要望等を確認している | 毎月第1木曜日に全員参加で、ケア会議を開催し職員の意見を吸い上げ運営に反映しています。実施例としては、リハビリの為足踏み車椅子を2台(室内・屋外)購入、脚力麻痺の人がトイレで立ち上がりが出れるようになった等があります。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 各種研修への参加を促している。また、上位資格の取得に向けて各自が努力できるような職場環境を設けている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修が募集されるたびに、各職員に出張での参加を促している。キャリアパスの導入により、資格取得も勤めている。介護福祉試験に3名臨む | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他のグループホームと相互訪問、人事交流により職員はもとより、利用者も交流を深めながら、サービスの向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 病院や以前のサービス提供事業所との連携をとり、家族の希望を伺い適切な対応に努めている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 利用者と家族を含めた協力関係を築くべく努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 何が必要かを見極めてサービス提供をしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 家庭的な雰囲気の中で、一緒に暮らしている一員として捉えるようにしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族との連携を密に、どのような状態かを的確に知らせ、家族とともに支えるようにしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 人の交流はなかなか困難ではあるが、本人が慣れ親しんだ行事への参加機会を与えることにより、接点を作るようにしている。友人等も訪問しやすい環境づくりをしている | 散歩の途中で近所の家に立ち寄り、顔見知りになった人達とお茶を飲む光景がみられます。1月・10月には金比羅様にお参りし出店でお団子を買うのを楽しみにしている人もおり、馴染みの関係を大切に支援している様子がうかがえます。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 少人数なので、良好な関係が築かれている。また、支援を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 手紙や葉書などでの交流は続けている。また、一人暮らしになってしまった家庭については、外出支援の予約など定期的に連絡をし、安否の確認を図っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の意向をしっかり探って、適切な対応が出来るよう努めている。 | 利用者がどうしたいのか、何を求めているのかは動きや表情を観察することにより察するよう日々努めています。入居時には不穏で言葉が出なかった人が、頻繁に話しかけ気持ちに添うことで、落ち着きを取り戻し会話ができるようになった例があります | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 個人個人の記録をしっかりとり、経過を把握するよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日の暮らしの中で、小さな変化も見逃さないよう個人ノート、引継ぎに注意している | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | なかなか家族を含めての話し合いはもてないが面会に来た時などを有効に生かし、適切な介護計画を作成している。 | 本人・家族からの聞き取りと認定調査などの資料をもとに計画作成担当者が計画を作成しています。月に1度ケア会議を行い、モニタリングをして必要があれば計画の見直しをしています。 | 様々な角度から利用者を見つめ、支援していくという視点に立って、広く関係者からの意見を求めた計画の作成が期待されます。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個々の利用者の方について、気づいたことをその都度記入し各種情報の共有に努め、計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 事業所でデイサービスの受け入れが可能となるよう受け入れ態勢を整備し、6月には単独の認知症通所介護を開始し、合わせて学童保育を実施している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 近くの図書館や文化会館での、音楽会や民謡ショーなど体調をみながら参加している | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 月1回、主治医の往診がある | 月に1回の訪問診療のほか、在宅時にかかっていた病院への受診も支援しています。通院の介助は家族や職員が状況に応じて対応しています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 健康管理、医療行為に関しては看護師にお願いしている、また相談などは、24時間体制で協力いただいている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 連携している | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 家族、医者との話し合いをし、事業所で出来ることを説明している。看取りを希望する家族も増えている。 | 看取りを願う家族が多く、職員もこれを自然な流れとしてとらえています。家族と話し合いを重ね、重度化した場合のケアのあり方について同意を得ています。医師や看護師との連携もとれており、利用者の最後に落ち着いて向き合う体制ができています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時の対応について訓練を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 防災マニュアルを作成し、常日頃から身につけるようにしている。地域の一員と加入しているが協力体制を、地域にお願いしている状況です。 | 年2回の火災避難訓練は、近隣の協力委員の方の参加を得て実施しています。津波の避難訓練も実施しています。防災マニュアルも作成され、スプリンクラー、自動通報装置、消火器等必要な防火設備は整っています。備蓄も準備されています。 | 太陽光発電により停電しても2日程度対応できるようですが、備蓄については、3～7日分は必要とされているので、備蓄の充実に向け更に、内容と量の見直しが望まれます。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--------------------|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | そのような扱いをしないよう努めている | 土地柄知り合いが多く、守秘義務については特に厳守を心がけています。また入浴は完全に1対1で対応すること、排泄や衣類の着脱の際には利用者の羞恥心、周囲の人への配慮などきめの細かい心配りが感じられます。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 支援している | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 支援している | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 支援している | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 支援している | ふきの筋をとったり卵の殻むきなどの調理の下ごしらえや配下膳などできることを手伝っています。ひな祭りにはみんなで桜餅を作るなど、利用者が生き生きする機会を提供しています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 支援している | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 支援している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 支援している | オムツを使用していた人が、リハビリと職員のサポートにより自分でトイレに行けるようになり、生活に活気が出たという例があります。職員の意見を反映し、排泄の自立のためにチェック表を有効に活用しています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 支援している | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 基本的には火曜日、金曜日に決めているが、火曜日に入れない人は月曜日にはいるとか融通がきくようにしている | 火曜日・金曜日の朝9時からを入浴の時間としています。体調の悪い人には全身清拭を行い、後日入浴するなど柔軟に対応しています。拒否のある人には言葉かけを工夫し、タイミングをみて入浴できるように支援しています | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 支援している | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個人ノートに薬の目的や副作用を書きとめ、個人個人を支援している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 各自が食事の後など他の人の分まで、下膳してくれたり、自分の役割を見つけている | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天候や、体調にあわせて家族の協力も含めて、柔軟に支援している | 天気のよい日には施設の前にある多目的広場に、シートを敷きお茶を飲んだり、テラスに椅子を出して外気に触れています。車で季節の花々を見に行くことも楽しみの一つになっています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 管理できない人は施設で、出来る人は自分で管理するよう支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙を書くのは困難だが、電話での交流は積極的に支援する。また、スカイプなどのIT機器を利用し顔の見える対話を進めていく。ちょっとしたビデオメールを送ったりもしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節の行事を取り入れ季節感が出るように共有空間づくりを工夫している。 | 日中ほとんどの人が過ごす居間兼食堂は中庭(イベント広場)を囲んでゆったりとした広いスペースになっています。床はフローリングで床暖房完備の、利用者が快適に過ごせるように配慮された空間になっています。利用者はこの空間でリハビリ体操や雪やこんこんの童謡などを唄うなど自分のペースで笑顔で過ごしています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 日光浴は毎日の日課で利用者同士が快適に過ごせるよう工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族と本人により居心地の良い空間をつくらせている。 | きれいで清潔感のある居室は、危険物以外何でも持ち込みは自由で、使い慣れた家具やテレビ、ぬいぐるみ、家族や行事の写真を飾ったりして自分の家のように居心地良く過ごしています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 出来ることは自立して行うように見守っている。 | | |